

第 45 回未来医療セミナー

心不全の発症機序に基づいた再生治療

千葉大学大学院医学研究院循環病態医科学 小室一成

心臓は、様々なストレスに対して、代償機構として心肥大を形成するが、破綻すると心不全を発症する。その機序の一部に、がん抑制遺伝子 p53 の発現増加による血管新生抑制が関係していることを明らかにした (Sano et al. Nature 2007)。今まで末梢動脈閉塞疾患患者約80名に末梢血単核球を用いた血管新生治療を行い、7割以上に効果を認めた。今後心不全患者に応用する予定である。一方心臓の再生を促進する目的で、心筋細胞分化を強力に促進する新しい分子として IGFBP-4 を同定した (Zhu et al. Nature 2008)。IGFBP-4 は、wnt シグナルを抑制することにより、心筋細胞分化、心臓の発生にも必須の役割を果たしていた。現在心臓の再生に促進的に働く可能性について検討中である。

2009.02.19
18:00-19:00

大阪大学医学部附属病院
外来棟 4 階第1カンファレンス室

連絡先: 未来医療交流会(大阪大学医学部附属病院未来医療センター内)

Tel:06-6879-6557, Fax:06-6879-6538

E-mail: koryukai@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp

協賛: 21 世紀 COE 細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成

- Center for Integrated Cell and Tissue Regulation -

